

ハイブリッドスターチスの促成栽培における開花特性

栗本 優美子

(福島県農業試験場いわき支場)

Flower Characters of *Limonium* in Forcing Culture

Yumiko KURIMOTO

(Iwaki Branch, Fukushima Prefecture Agricultural Experiment Station)

1 はじめに

福島県のハイブリッドスターチス栽培は無加温栽培が主流で、出荷時期は6～9月に集中しており、有利販売を図るためには、作期拡大、平準出荷が望まれている。春期の出荷を前進させるため、主要品種の一つである「ミスティブルー」を用い、秋に低温遭遇して生育の停止した株を1月以降に加温する促成栽培において、加温温度及び加温開始時期と開花特性の関係を検討した。

2 試験方法

(1) 加温温度が開花に及ぼす影響

1) 試験年次 1995年度 (1995～1996)

2) 栽培方法

苗定植6年目の株を10月下旬に圃場から掘り起こし、枝葉整理後プランター (27ℓ) に2株ずつ定植した。

3) 試験区の構成

1996年2月27日から最低気温15℃と10℃、無加温の3試験区を設定した。供試株数1区8株。

(2) 加温開始時期が開花に及ぼす影響

1) 試験年次 1996年度 (1996～1997)

2) 栽培方法

苗定植7年目の株を10月下旬に圃場から掘り起こし、枝葉整理後プランター (46ℓ) に1株ずつ定植した。

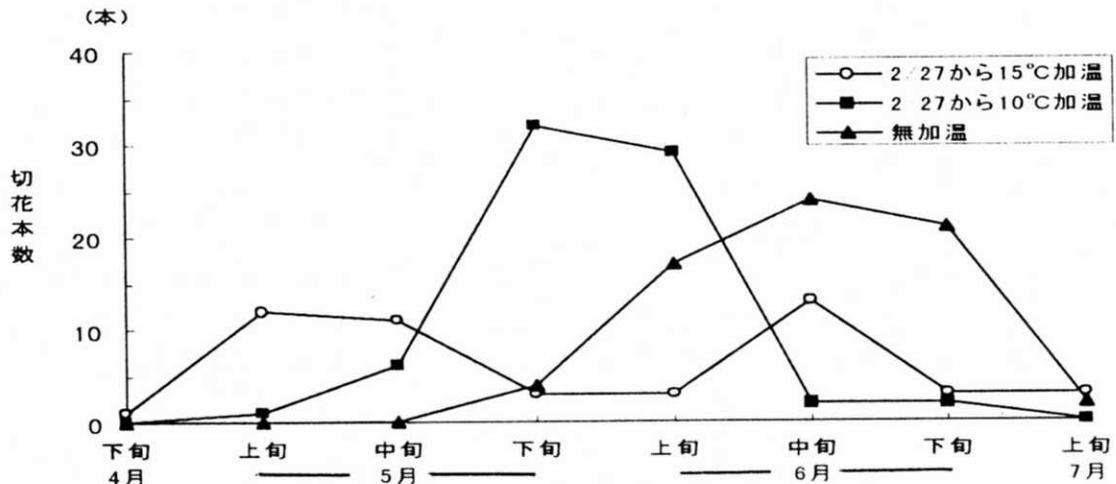


図1 旬別切花本数 (1996)

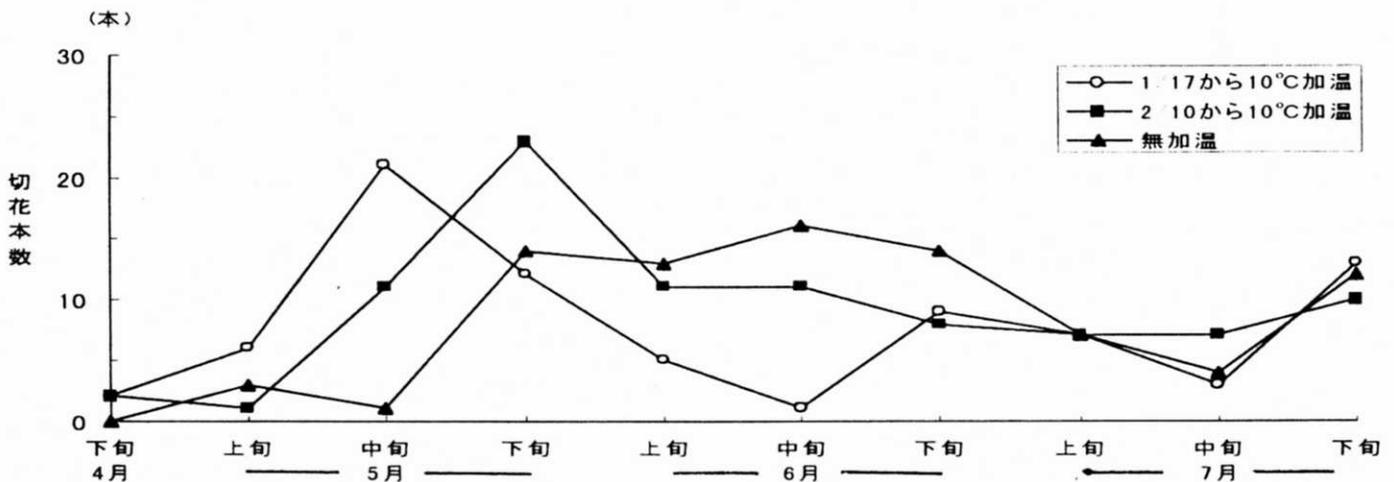


図2 旬別切花本数 (1997)

3) 試験区の構成

最低気温10℃とし、加温開始時期を1997年1月17日、2月10日、そして無加温の3試験区を設定した。供試株数1区10株。

3 試験結果及び考察

(1) 加温温度が開花に及ぼす影響

7月上旬までの切り花本数の推移をみると、最低気温15℃に加温した場合、切り花の山(切り花本数が多い時期)は2回であり、最低気温10℃と無加温では、1回だけであった。切り花の山は、無加温と比較して最低気温15℃の場合は4~5週間、10℃の場合は約2~3週間前進した(図1)。

(2) 加温開始時期が開花に及ぼす影響

最低気温10℃の加温において、切り花の山は無加温と同様に1回だけであり、加温開始時期が早いほど切り花の山は前進し、加温開始時期が1月中旬の場合は5月中旬、2月中旬の場合は5月下旬となり、無加温と比較して約10~20日前進した(図2)。

(3) 切り花時期と日平均積算温度

10月下旬の定植時から、1回目の切り花の山までの日平均積算温度(1日1時間おき24点の平均気温の積算)は加温、無加温にかかわらず2700℃前後であった。また、この時点の切り花率は各区30~40%であった(表1)。

(4) 切り花本数と切り花品質

切り花品質と切り花本数をみると、15℃加温でやや劣るが、加温と無加温を比較すると大きな差はみられなかった。また、切り花長、切り花重等の品質は、97年より96年のほうが劣ったが、これは肥培管理が同じでも、96年の場合、1株当たりの土量が97年の約3割しかなかったことが影響しているのではないかと思われる(表2)。

表2 切花品質と切花本数

| 調査年 | 加温温度 | 加温開始時期 | 切花長 (cm) | 切花重 (g) | 分枝数 (本) | 分枝長 (cm) | 茎径 (mm) |
|------|------|--------|----------|---------|---------|----------|---------|
| 1996 | 15℃ | 2/27 | 80.9 | 14.0 | 8.4 | 30.6 | 2.7 |
| | 10℃ | 2/27 | 92.2 | 17.3 | 9.3 | 34.1 | 2.8 |
| | 無加温 | - | 91.5 | 19.0 | 10.2 | 45.2 | 2.6 |
| 1997 | 10℃ | 1/17 | 120.4 | 66.9 | 15.8 | 71.7 | 3.6 |
| | 10℃ | 2/10 | 123.6 | 64.3 | 15.5 | 74.2 | 3.3 |
| | 無加温 | - | 113.5 | 56.3 | 15.1 | 67.7 | 3.4 |

表1 1回目の「切り花の山」までの積算温度

| 調査年 | 加温温度 | 加温開始時期 | 積算温度 ¹⁾ | | 切花率 (%) |
|------|------|--------|--------------------|------|---------|
| | | | (℃) | 到達日 | |
| 1996 | 15℃ | 2/27 | 2674 | 5/13 | 39 |
| | 10℃ | 2/27 | 2640 | 5/28 | 31 |
| | 無加温 | - | 2698 | 6/10 | 29 |
| 1997 | 10℃ | 1/17 | 2711 | 5/19 | 37 |
| | 10℃ | 2/10 | 2716 | 5/26 | 33 |
| | 無加温 | - | 2694 | 6/9 | 37 |

注. 1): 積算温度: 各年定植からの日平均気温(1時間おき24点の平均)の積算、累計。

1996年: 15℃加温終了日 5/20,

10℃加温終了日 5/2

1997年: 加温終了日 5/21

4 ま と め

1月以降に加温する促成栽培において、10月下旬からの日平均積算温度2700℃前後を目安とし、ある程度まとまった切り花ができる時期を予測することが可能と思われる。また、無加温時の開花期及び日平均積算温度から逆算することによって出荷時期、加温開始時期、加温温度の設定を行うことも可能と思われる。

なお、地植えによる検討、7月中下旬以降の株状況(夏秋期及び翌年の切り花本数、切り花時期など)及び低温遭遇量等の検討がさらに必要と思われる。